

小野田産業、大栄産業

# 浄化槽利用の「非常時生活排水処理槽」

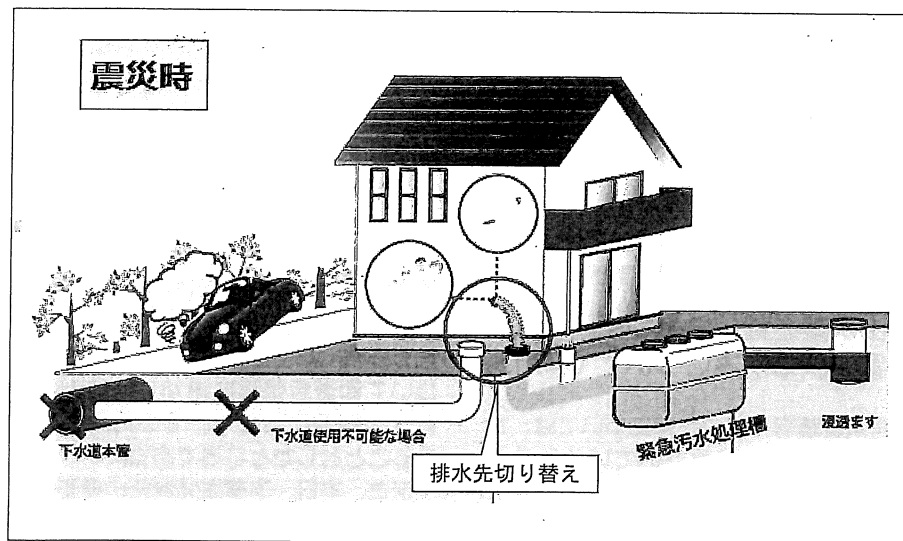
## 静岡市・下水道処理区域内で建築中

住宅メーカーの小野田産業(株)(本社=静岡市、小野田良作社長)はこのほど、大栄産業(株)(本社=愛知県美浜町、木村尊社長)と提携し、浄化槽を利用した排水処理装置「非常時生活排水処理槽」を発表した。災害時に下水道が寸断するとトイレや風呂、台所等が使用できなくなるが、その際に排水先を非常時生活排水処理槽(浄化槽)に切り替えることで平時とほぼ同様の生活を送ることができるというもの。下水道処理区域内であっても設置可能で、すでに同処理槽を活用した「パーフェクトハウス」が静岡市内で建設中だ。

パーフェクトハウスというのは「被災者を出さない家」のコンセプトで小野田産業が取り組む住宅のことで、耐震、断水、停電、排水の4対策が組み込まれている。

耐震については圧縮空気により住宅を基礎ごと浮かせる「エア断震」システムを設置。震度4以上の揺れに反応し住宅を2分間浮かせることで、揺れを最大1/30に軽減する。

その上でインフラが寸断したことを想定し、断水対策には井戸水や雨水利用装置、停電対策には太陽光発電やプロパンガス発電機を設置。さらに下水



道が損壊するとトイレを含む生活排水が流せなくなるため、排水対策には浄化槽を利用した「非常時生活排水処理槽」を組み込んだ。非常時生活排水処理槽は通常時は雨水貯留槽として利用し、災害時に下水道が使用できなくなれば、排水管切り替え作業を行い、同

槽で生活排水を処理・放流する仕組み(図参照)。

元となる浄化槽は東日本大震災でも全損率3.8%と極めて地震に強いことが証明されており、国土交通省でも今年3月23日、非常時の場合は下水道処理区域内であっても浄化槽が「応急仮設建築物」として設置が可能で、排水の切り替えバルブを備えていれば平時であっても災害時の備えとして「浄化槽が設置は可能」と全国に周知していた。

国土強靱化に資する取り組み、サービス、技術等を評価する「ジャパン・レジリエンス・アワード2017」でも同製品の特徴が評価され、優秀賞を獲得した。